実施主体、事業名などの概要

・事業名：海と共生するまち・大槌～環境再生型観光モデルの創出～
・実施主体：NPO法人おおつちのあそび
・対象地域：岩手県大槌町
・対象とする良好な環境：令和の里海事業R6採択地域

地域の現状・課題

- 三陸沿岸に位置し、二次交通の利便性が低い、知名度が低い
- 特徴的なプログラムを繋ぐストーリーの構築やコンテンツ整理ができていない、プロモーション戦略の不足。
- 藻場保全活動の周知と継続

目指すべき姿（中長期ビジョン）

- インバウンドや国内都市部から集客できる、良質で独自性の高いリジェネラティブな観光プログラムを確立
- 観光客も単なる訪問者ではなく、大槌の自然を守る主体者として継続的に関われる仕組みを整える

R7：コンセプト・ストーリー策定

実施項目（事業内での取組）

- 既存の観光コンテンツ整理
- 市場調査・ターゲットの分析
- コンセプト策定・仮説検証
- 自然共生サイトを活用したフィールドブランディング

R8：ブラッシュアップ・プロモーション

実施項目（事業内での取組）

- コンテンツのブラッシュアップ
- プロモーション戦略の構築
- 継続的なPDCAとブランド構築
- 観光活動による環境への影響・貢献の評価

R9：保全と活用の融合（事業期間終了後）

実施項目（自走化）

- 観光客が主体的に保全の活動者となれる観光地として自走
- 教育旅行・企業研修、個人旅行両方のインバウンド誘致・受入

対象となる良好な環境の概要

岩手県大槌町

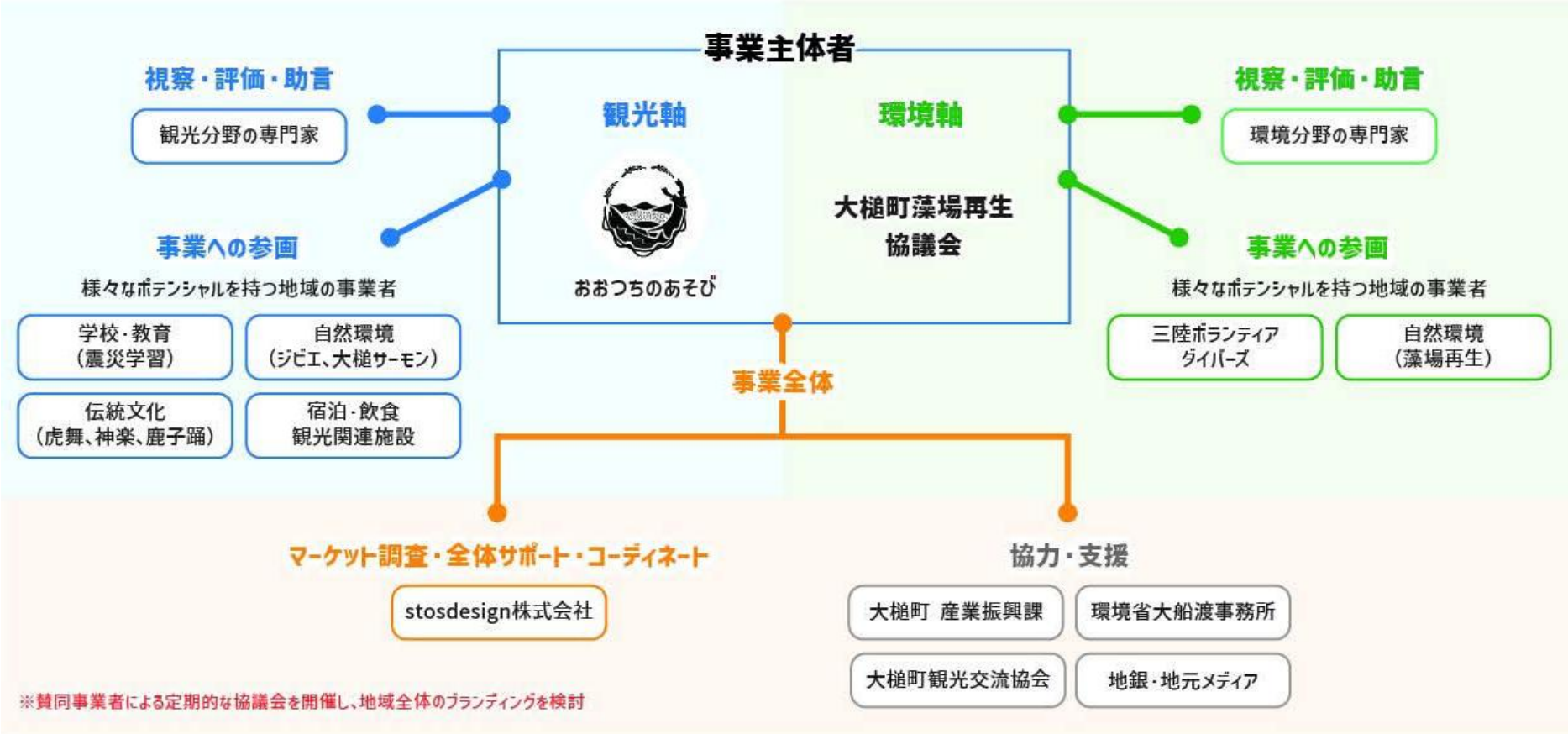
- ✓ 世界三大漁場と豊富な藻場により、鮭、ウニ、アワビ等の水産物が豊富だった
- ✓ それらの水産物(三陸俵物)の江戸との交易により、**虎舞等の伝統芸能が形成**される
- ✓ 近年磯焼けにより、磯根資源の漁獲量減少、**行政・漁業者、ダイバーで一体となり、藻場再生活動を**展開
- ✓ リアス地形により山と海の循環も感じやすい、林業やジビエ事業などの**森林保全の取り組みも盛ん**
- ✓ 過去に幾たびかに大きな**津波被害に遭う地域**、災害という側面での海についても知れる

良好な環境に係るストーリー

大槌町のコンセプト：【海と山と人の環（めぐり）】【Cycle of sea, mountain, and people】

大槌町では、古くから人と海は支え合い、また海と山も支え合い、共に支え合い循環して生きてきた。一方的に搾取するのではなく、共に支え合う仲間として、藻場再生や森林保全に取り組んでいる。観光客もこの循環を回す一員として、循環・共創の一部となり、活動する

実施体制（図示）



受託者であるNPO法人おおつちのあそびが主体となって、地域の体験観光事業者と密に連携・協議を行い事業を実施している。他地域で同様の観光ブランディング事業を多く手がけてきたstosdesign株式会社に、マーケット調査や事業全体のサポート、視察旅行等のコーディネートをしていただいている。また、大槌町役場産業振興課、大槌町観光交流協会とも情報共有、連携を図り、事業を進めている。

【R７年度取組】

既存の観光コンテンツ整理

- 町内体験観光事業者にヒアリング、協議を実施し、既存のコンテンツをテーマ別に分類
- 整理した既存のコンテンツの強みや課題について専門家による評価を行った

特に工夫した点・取組成果

- 各種体験プログラムの団体受入やインバウンド対応の可否等整理、旅行者のニーズや課題について把握した
- 専門家による評価によりターゲットや近年の観光情勢について把握できた。
- 上記をコンセプト、ターゲット策定の材料とし検討を進めている

市場調査・ターゲットの分析

- 他地域や海外における環境保全活動の観光化について情報収集、検索されているワードについて調査
- 外国人向けの体験プログラムに対するアンケートを実施
- 同じく立地の不利な山形県にてインバウンド誘致に成功している事例を視察した

特に工夫した点・取組成果

- 欧米豪では、環境保全の有償ボランティアが盛ん
- アンケートの調査結果より、アジア圏は自然アクティビティやグルメに関心、欧豪では環境保全や文化体験に高い関心があることがわかった
- 鶴岡では、観光客が来るためのストーリーの組み立て方や、来てからの体験の意味づけの仕方に工夫を感じた。

コンセプト策定・仮説検証

- 整理・評価結果とターゲットの分析を元に仮ストーリー策定し、モニターツアーを実施
- 評価や調査、分析した材料から、保全と観光を融合できるコンセプト・ターゲット・ストーリーを策定した
- コンセプトを伝え体験が予約できるHP・パンフレットを作成した。

特に工夫した点・取組成果

- モニターツアーで海に海草種苗を設置した。ツアー前半に大槌の海とその歴史について学び、後半で自分たちが海を再生する役割を実際に担った。上記の流れが高い達成感と満足度を生んでいた。
- 大槌の独自性として復興や藻場再生をテーマに自然と人の循環を体感できることとした。

自然共生サイトを活用したフィールドブランディング

- 企業と共に自然共生サイトに係る保全と観光を融合した活動を実施した
- 自然共生サイト申請へ向けて活動実施前の藻場環境についてモニタリングを実施した。
- 上記活動を自然共生サイト申請へ繋げ、観光地域としてネイチャーポジティブなブランドイメージを構築する

特に工夫した点・取組成果

- 自然共生サイトに関心のある企業・教育機関と8月1回、12月3回活動した。
- モニタリング結果を元に生物多様性増進計画策定中、自然共生サイト申請へ繋げる
- 12月2回、1月に1回、大手企業と協働でのコンブの種苗投入活動を実施した。
- 上記保全活動を踏まえた自然共生サイト申請を次年度予定

R7年度のゴール

- 観光客を保全活動の主役にする観光コンセプト策定、ターゲットに応じたコンセプトの展開
- 地域一体となった自然資源を活用した観光、保全活動のコンテンツ化への機運醸成

課題

- 特徴的かつストーリー性の高いパッケージを取り扱う旅行会社、ランドオペレーター等との人脈、関係性が少ないため、素晴らしい観光プログラムが構築できても販売ルートを見出せていない
- 英語の通訳は何名かいるが、中国語のできる通訳人材が乏しい（広域連携で解決できてきそう）

取組内容全体まとめ

- 地域のコンテンツをテーマ（自然との共生、震災の記憶と未来への伝承、地域文化の継承）に分け、それぞれの事業者からヒアリングを行いコンテンツの思いやストーリーを整理した。それのマーケット性について淑徳大学千葉千恵子教授に評価していただいた。
- 合計79名（アジア40名、欧米豪29名、その他10名）から大槌町の体験についてアンケートを実施した。以下に解答の概要を示す。

  若年層・アジア圏　→ アクティブ体験（狩猟・キャンプ・サバイバル）に強い関心

  中高年層・日本在住者　→ 文化・歴史・学び系（伝統芸能・サケの歴史・災害学習）に関心

  欧米圏　→ 環境保全や自然体験（藻場再生・アウトドア）への意識が高い

  体験コンテンツごとの期待値（5点満点）では、上位から順に、吉里吉里国のサバイバル体験（3.52）、藻場再生体験（3.44）、郷土芸能見学（3.43）、サーモンツーリズム（3.30）、ジビエツーリズム（3.03）、震災学習（2.84）の順だった。
- 上記を踏まえ、「海との共生・リジェネラティブツーリズム」として、震災からの人間と環境の再生をテーマを仮説にモニターツアーを実施した。1日目に震災学習、サーモンツーリズム、郷土芸能見学、2日目には藻場再生体験、火おこし体験を実施した。

- 以上の評価、アンケート、モニターツアーを踏まえ、地域体験事業者で話合いを重ね、町のコンセプトとして「海と山と人の環（めぐり）」を、ターゲットとしてAT・環境保全に関心のある欧米豪個人旅行、環境保全研修に関心のあるアジア系(台湾)団体を仮決定
- 上記のコンセプト、ターゲットにより合うよう磨き上げのため2月には三陸地域の外国人旅行者のスルーガイドを務める2名を招待しモニターツアーを実施した、また他地域視察として山形鶴岡・出羽エリアを見学した。
- 藻場再生活動と企業のCSR活動の連携による保全と活用の融合を進めている。CSR活動の成果を発信しやすくなり、環境再生型観光に取組む地域としてのブランディングを進めるため、自然共生サイトの認定を目指し生物多様性増進計画の策定を進めている。

課題

- 販売ルートの確立が課題である。令和8年度の事業にて、商談会やイベントへの参加、FAMトリップの誘致を実施し、旅行会社やランドオペレーターとの連携を増やすほか、OTAサイトへの掲載も増やし、販売ルートを確立する予定である。

取組内容詳細：既存の観光コンテンツの整理と評価

- 大槌町内で体験コンテンツを提供している事業者、体験コーディネートを実施している事業者にヒアリングを行い、それぞれのコンテンツ（内容、体験時間、料金、団体対応の有無、英語対応の有無、伝えたい想い等）について整理した。
- 一部抜粋したものが以下である。

No.	カテゴリー	体験種別	付帯コンテンツ	コンテンツ名	ストーリーコンセプト（短く）	実施状況	対象者区分	分類テーマ（キーコンセプト）
1	体験	屋内：見学型		大槌ナイトサファリ	里山に出るシカを見ることで、日本の有害鳥獣問題について考える	実施中	個人, 団体	自然との共生・循環
13	体験	屋外：体験・参加型		大冒険シーカヤックツアー	藻場再生やサーモンに取り組む吉里吉里の海をシーカヤックで探検して学ぶ	実施中	個人	自然との共生・循環
15	体験	屋外：体験・参加型		シュノーケリング&SUP体験	研究者と藻場再生ダイバーと一緒にシュノーケリングをし、三陸の海洋環境や海の生き物、磯焼けや藻場について学ぶ	実施中	個人	自然との共生・循環
16	体験	屋外：体験・参加型		ナイトハイク	普段歩くことのない夜の森を歩き、五感を研ぎ澄ませる。夜行性の生き物について学ぶ	実施中	個人	自然との共生・循環
17	体験	屋外：体験・参加型		藻場再生体験	大槌の磯焼け問題に触れ、藻場再生活動を通して豊かな海を作る一員となる	実施中	個人, 団体	自然との共生・循環
21	体験	屋外：体験・参加型		藻場再生ダイビング	大槌のウニ・アワビや魚が獲れる豊かな藻場を育む活動を体験できる	実施中	個人	自然との共生・循環
29	体験	屋外：体験・参加型	宿泊・その他	テントサウナ	山の恵みを海で楽しむ、心も体もととのう体験	実施中		自然との共生・循環
6	体験	屋内：体験・参加型	その他？	shake プロジェクト	鮭を全国に放流し、また大槌に遡上させる。企画への参加を通して、大槌へのリピートや参加者同士の交流の循環が生まれる。	実施中	個人	社会課題の創造的転換
24	体験	屋外：体験・参加型	食事	火おこし・防災食づくり体験	薪→食につなげる体験　食べること、山（自然）と共に生きる暮らしを体感する	実施中	個人, 団体	震災の記憶と未来への継承
28	体験	屋外：体験・参加型		震災から吉里吉里国の今まで	海からの災害から「森で生きる」を見出し、森林づくりに繋がった	実施中		震災の記憶と未来への継承
3	体験	屋内：体験・参加型	その他？	決断のワークショップ	決断に必要な覚悟を知り、多様な価値観と共存するあり方を学ぶ	実施中	団体	震災の記憶と未来への継承

- 地域のコンテンツをテーマ（自然との共生、震災の記憶と未来への伝承、地域文化の継承）に分類・整理した。
- その中でも特に本事業と親和性が高く事業者のモチベーションも高い体験コンテンツについて、淑徳大学の千葉教授にオンラインにて概要を発表し、それぞれのコンテンツの独自性、親和性の高いターゲット、課題等について評価していただいた。評価のコメントの一部抜粋を以下に示す。

魅力度・大槌のコンテンツが当てはまるかどうか（記述）	独自性・大槌らしさ（記述）	想定されるターゲット層（記述）	国内外での類似事例（記述）	課題・改善点（記述）
藻場再生をメニュー豊富にツーリズムの角度からアクティビティとつなぐ事例は国内市場でまだ、みたことがなく、「看板」になる。	「藻場」という言葉の響きが大変よい。マングローブの植樹が若干大衆化し、CSRにおける環境活動などで体験者が増えたが、藻場の再生がツーリズムと融合した事例を聞いたことはない。カヤックやダイビングなどアクティビティとの融合がある点は高く評価できる。	サンゴの再生シュノーケル体験を沖縄恩納村で、教育旅行として行っているが、藻場の場合は企業インセンティブが効果的かと考える。また、フィリピンやインドネシアなど島しょの知識階級層の例えば学会エクスカーションなどが有効か。	サンゴの再生シュノーケル体験を沖縄恩納村で、教育旅行として行っているが、藻場の場合は先例をみない。シーカヤック等は水上温泉（群馬）が進んでいるとの認識で、北海道のネイチャーガイドも水上市へと足を運んでライセンスの取得などをしている。（例えば北海道名寄のネイチャーガイドに言わせると、釣りはブ	シーカヤックやSUP、シュノーケルは、沖縄はじめ各所でみられ、都内では奥多摩などでも導入が進む。藻場や地引網との組み合わせで差別化すべきでは。

課題

- それぞれのコンテンツによって受入体制が異なっているため、どう取りまとめるか
- それぞれの事業者の想い・ストーリーをどのように一つのストーリーにまとめるか
- 想い・ストーリーによってターゲットが異なる可能性

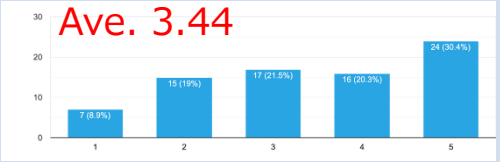
取組内容詳細：市場の調査・ターゲットの分析

- 大槌町の自然資源を活用した体験コンテンツのターゲット探索、市場調査、各コンテンツへの興味や魅力度の把握を目的として、アンケート調査を実施した。合計79名、アジア圏から40名、ヨーロッパから12名、アメリカから12名、オーストラリアから5名、その他の国から10名の回答を集めた。回答者は本事業関係者のSNS等で告知し募集した。そのため、日本と関わりがある、また、日本に何度か観光に訪れたことのある回答者が多いと考えられる。24歳以下から65歳以上までの幅広い層からバランスよく回答が得られた。アンケートを分析した総合的な傾向としては以下が得られた。

若年層・アジア圏　→ アクティブ体験（狩猟・キャンプ・サバイバル）に強い関心
中高年層・日本在住者　→ 文化・歴史・学び系（伝統芸能・サケの歴史・災害学習）に関心
欧米圏　→ 環境保全や自然体験（藻場再生・アウトドア）への意識が高い

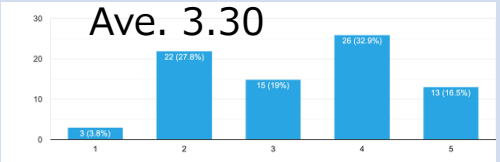
- 大槌の体験プログラムへの興味（5点満点）とその理由を以下の表にまとめた。

藻場再生プログラム



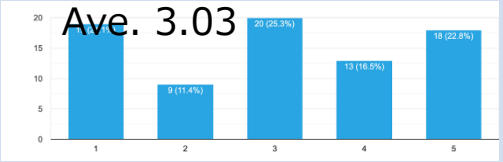
- 自然を楽しみつつ保全に貢献が魅力
- サステナビリティ、地域への貢献
- 海の自然を体感できるのは珍しい
- 日本の海でダイビングしてみたい

サーモンツーリズム



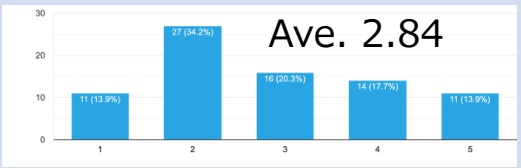
- 町の歴史とグルメに興味がある
- サーモン食べるのが好き、親しみやすい
- 釣りの体験に興味がある
- 家族で学びながら楽しめそう

ジビエツーリズム



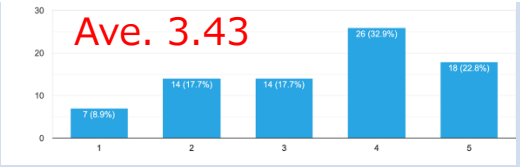
- 珍しい体験、マタギ文化に興味がある
- 自国ではできない体験だから
- 狩猟、解体には少し抵抗がある

震災フィールドワーク



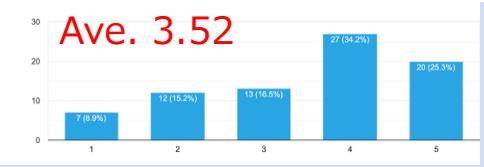
- 日本は災害に強い国、そこから学びたい
- 災害リスクの軽減について学びたい

郷土芸能の舞



- ここでしか見られないから
- 独自性を体現している伝統芸能を見たい
- この土地の文化や芸能について学びたい

吉里吉里国

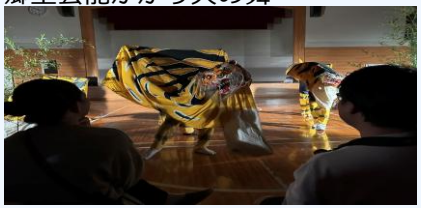


- 防災にも繋がる生きる力を身につけたい
- 現代生活から離れて自然を満喫したい
- 能動的な体験、スキルを身につけられる

取組内容詳細：コンセプトの策定・仮説検証

- 前述までのコンテンツ評価を元に、「海と共生するリジェネラティブツーリズム」を仮説ストーリーとしてモニターツアーを実施した。モニターツアーの内容を以下にまとめる。モニターツアーには、アメリカ人、台湾人、日本人、ブラジル人、マレーシア人の合計7名が参加した。ツアー後に意見交換・アンケートを実施した。本アンケートの全体の満足度は4.4であり、 KPI目標【モニターツアーアンケート4.0以上】を達成した。

1日目：大槌町の震災・津波の歴史と、鮭・水産の歴史、海運により運ばれた郷土芸能に触れ、大槌町の人々がこれまでどのように海と関わってきたのかを知る。内容　：町内震災フィールドワーク、鮭とサーモンFW、郷土芸能かがり火の舞



2日目：現在の海の環境・状況を知り、自分たちが海にできることを実践する
内容　：薪割りとサバイバル食づくり、藻場再生ダイビング、ナイトサファリ

- 前述の専門家評価、アンケート調査、市場調査、モニターツアーアンケートの結果より、体験事業者間で月に1度程度、計11回協議を重ね、コンセプト・ストーリー・ターゲットを決定した。KPI目標【協議会の開催回数5回以上】を達成した。協議の議事録を別添資料にまとめた。ストーリーを伝え、コンテンツ販売できるHPとパンフレット・動画を作成した。
- コンセプト：「海と山と人の環（めぐり）」

期待・興味関心の高かった、「藻場再生」「吉里吉里国」「郷土芸能」を入り口に、観光客に役割を与え、環境・文化保全の一員となるモデルコース・プログラムを構築中。震災フィールドワークで、地域と人の繋がりを再考

ターゲット：1. AT・環境保全志向の欧米豪個人旅行、20~50代、カップル、ソロ
2. アジア系 環境保全・リーダーシップ養成 教育機関、企業研修

課題

- 仮説とターゲット策定が本当に合っているかわからないため、引き続きランドオペレーターや旅行会社を招いての検証やヒアリングが必要である。

取組内容詳細：コンセプトの策定・仮説検証2

- 2026年2月2~4日にかけて、本地域でインバウンド受入・ガイド・ランドオペレーターを担っているThree goatsのスタッフ2名（オーストラリア人とアメリカ人）を対象に、前述のコンセプト、ストーリーを実践する仮説検証のモニターツアーを実施した。本モニターツアーの目的は、プログラム内容のフィードバック、ストーリーのフィードバック、各プログラムとストーリーのターゲットと販売戦略についてのヒアリングである。

1日目：大槌町の水産の歴史について知る神社ウォーク、藻場再生講話・機材フィッティング、地元居酒屋で海の幸体験

2日目：藻場再生シュノーケル・カヤック、吉里吉里国にて火おこし・コーヒー焙煎体験・おおとらにて虎舞見学

- いただいた意見、感想等は別途モニターツアー2回目報告書にまとめている。
- 計2回のモニターツアーで2名ずつ観光・環境関係者から意見をいただき、KPI目標【専門家視察4回】を達成した。また、吉里吉里国、おらが大槌夢広場、大槌虎舞協議会、翔龍丸、大槌町藻場再生協議会、サトウ民宿と連携し、 KPI目標【連携事業者5事業者】を達成した。

課題

- 寒い時期のマリンアクティビティは機材代が高額、レンタルでも減価償却に時間がかかる
- 遊漁船の安全装備規制が非常に厳しくなった

取組内容詳細：コンセプトの策定・仮説検証2

- 2026年2月7~8日にかけて山形県鶴岡市にインバウンド受入体制について視察に行った。視察受入のコーディネートは、専門家の宮様と交流のあるOffice K&Mの相馬様に行っていただき、鶴岡におけるインバウンド向けプログラムの体験、造成の経緯やプロモーションについてヒアリングを実施した。全てのプログラムで、体験前に時間をかけたイントロダクションを行い、旅行者に対して体験の意味合いをしっかりとインプットしているのが印象的であった。また、鶴岡JOINが主体となり、地域で一体となり、食文化や地域の信仰を守り伝える体制（ユネスコへの登録等）が整っており、地域一体となって観光に取り組んでおり学びが多かった。
- 1日目　出羽三山羽黒山山伏体験、スイデンテラスへチェックイン、インバウンド向けプログラム食楽（生産者とのディナー）体験

- 2日目　黒川能体験、鶴岡市におけるインバウンド受入についてヒアリング・意見交換、農家おかみとランチプログラム体験

参考：鶴岡join(https://tsuruokajjoin.com/)

課題

- 大槌町では歴史のあるものが形として残りづらいので、違う形（郷土芸能等）で伝える必要がある。
- 地域内だけではなく、周辺市町村との広域連携も必要

取組内容詳細：コンセプトの策定・仮説検証3

- コンセプトに合う大槌町の体験アクティビティを予約できるサイトを構築した。次年度に多言語化する予定である。

  こちらのURLである：https://otsuchitravel.com/

- コンセプトのショート動画を作成した。

  URL：https://youtu.be/ZZcBzLHNKRY?si=NMTTOR1kEB53Go2c

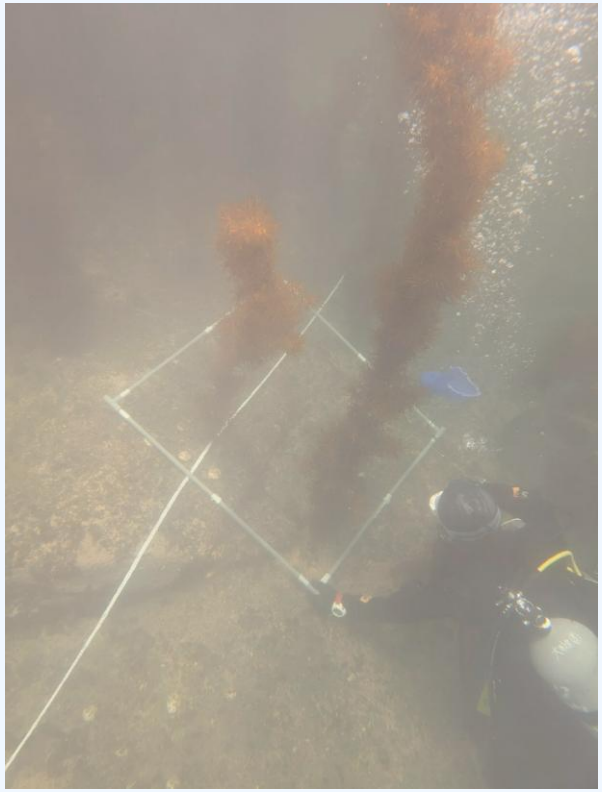
- パンフレットについても作成した。別添資料として添付する。

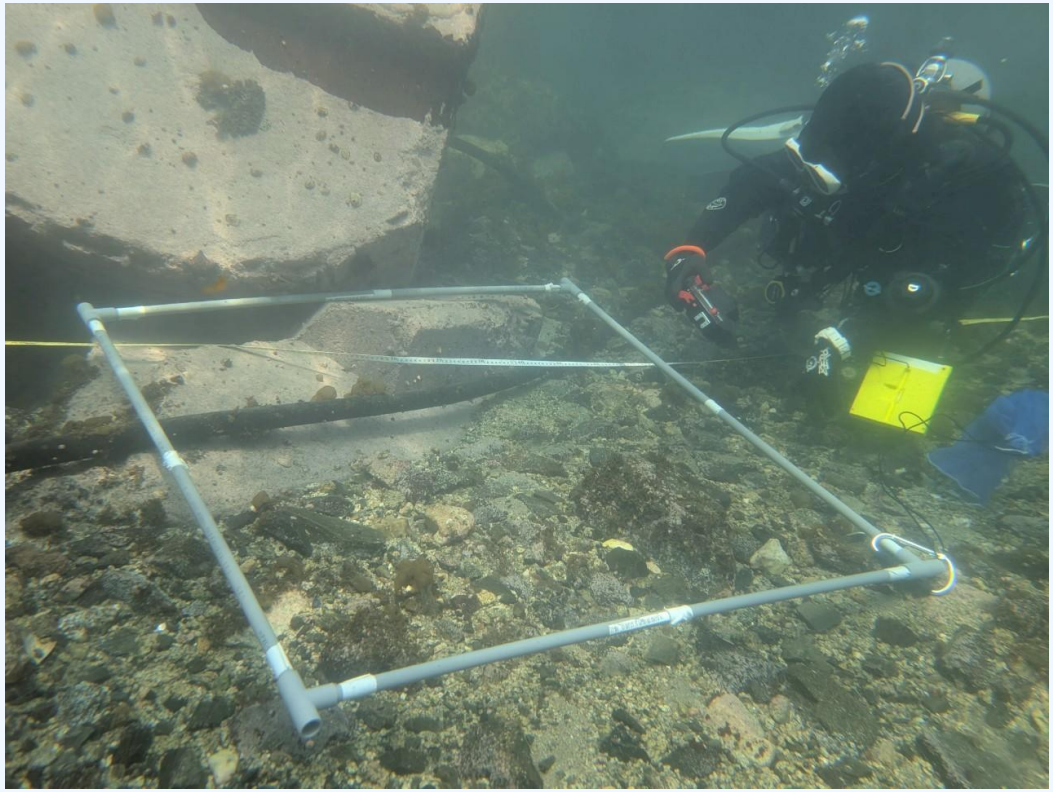
課題

- 予約システムや団体毎のプログラムの更新などの手間がかかる事が課題である
- HPを発信するSNS運用等の整理がまだ終わっていない。

取組内容詳細：自然共生サイトを活用したフィールドブランディング

- 企業との藻場再生活動に先駆けて、活動前の海洋環境・藻場の繁茂状況を把握するためのモニタリング調査を計6回実施した。
- モニタリング調査地点は以下の6地点である。うち2点についてはモニタリングサイト1000に則ったライントランセクトと永久コドラート調査を実施し、4点については水深別のコドラート調査を実施した。
- 本調査の結果を元に、藻場再生活動を実施した際の効果、活動のしやすさ等を検討し、企業と実施する際の藻場再生活動の実施地点を検討した。検討した結果、吉里吉里フィッシャリーナ内水路のアマモと、弁天島付近のコンブ種苗ロープ設置とした。
- 別添資料に調査地・調査結果をまとめた。 本調査によりKPI目標【環境保全活動効果検証6回】を達成した。





課題

- 調査にかかる費用を今後どう負担していくのか

取組内容詳細：自然共生サイトを活用したフィールドブランディング

- 藻場再生活動に興味がある大手企業と持続的な活動に向けたヒアリングを実施し、協働で藻場再生活動を実施した。この藻場再生活動は、企業研修として各企業から体験料をいただき実施しており、保全と観光活動の融合である。※モデル事業外で実施
- 以下が活動の様子である。8月には1社（アイシン東北様）とアマモの花枝回収、12月には2社（アイシン東北様、トヨタ紡織様）と泥団子法によるアマモの種子散布、コンブの種苗ロープの設置を実施した。1月には1社（弓ヶ浜水産・ニッスイ様）と潜水作業を伴う、コンブロープの種苗設置を実施した。

- 参加企業からの要望として、大手企業として藻場再生活動に参加することの意義を可視化するためにブルーカーボン創出量の算出や自然共生サイトへの共同申請を希望する意見をいただいた。
- 本事業で実施した活動前調査と、自主的に2026年春頃に実施するモニタリング調査の結果を踏まえ、自然共生サイトへの申請は5月頃を見込んでいる

課題

- 企業ごとの活動エリアや成果の切り分け

本事業を通して実現する「保全と活用の好循環」の仕組み

保全の具体的内容・方法

- 大槌町藻場再生活動による、磯焼け対策、ブルーカーボンの創出、生物多様性増大への貢献

1. 食害生物の密度管理
2. 各種海藻類の増養殖
3. 活動成果・現況の調査・モニタリング

- 企業のCSR活動・教育機関による藻場再生活動
- 鳥獣保護管理や間伐・林業による森林生態系保全

活用の具体的内容・方法

- 『海と山と人の環』として循環を一緒に回したい、インバウンドも含む個人、企業・教育機関への体験プログラムの提供
- ブルーカーボンの創出・売買や、自然共生サイト登録による企業CSR活動との連携
- 海洋と森林の循環・保全をテーマにした体験プログラムの造成・提供と関係交流人口の増大

活用から保全への還元方法

- 保全活動を「自然と人の循環」としてブランディングし、インバウンド向け個人旅行観光プログラムや、企業・教育機関向けの研修プログラムとして保全活動を共に実践し、金銭的な還元と、人員的な還元を図る。その際には、地域の漁業者を講師やガイドとし、漁業者から傭船するなど、漁村・漁民の活性化にも寄与する。
- 実際に体験・観光に来るだけでなく、ブルーカーボン売買や、保全の一助となる地場産品（ウニ、アワビ、薪、ジビエ）のオンラインショップでの購入、オンラインでの藻場再生・保全活動（オンラインコンブオーナー等）の支援体制等も整えていきたい（HP構築後、R8年度に実施を検討）

【Ｒ８年度取組】

コンテンツのブラッシュアップ

- ストーリー、コンセプト・ターゲットに応じたコンテンツ内容のブラッシュアップ
- 一貫したストーリーで繋いだモデルコースの作成
- タリフの作成と販売体制の構築

想定する成果

- R7に策定したコンセプトと合致し、どのプログラムに参加しても共通の「キーワード」に出会えるプログラム
- コンセプトに合致したモデルコースとタリフ

プロモーション戦略の構築

- インフルエンサーも活用したSNS戦略の強化と広告発信
- FAMトリップの実施と参加者の意見をヒアリング、商品内容を確定
- 多言語化ツールの整備とHPの情報発信の強化

想定する成果

- SNSからの観光客の流入、認知向上
- ニーズに合った小規模～中規模団体旅行の体験プログラムの完成
- それぞれのプログラムの多言語対応、体験HPの完成

受入体制とブランド構築

- ガイドの育成とインバウンド向けスルーガイドの配置
- 近隣地域とのパートナーシップの強化とストーリーの確立によるブランドの確立
- 販路の最適化、OTA旅行会社との連携各種商談会への出展

想定する成果

- 周辺地域と一体となった広域での観光ブランディング
- 二次交通の便の悪さに左右されない、ストーリー性を重視し広域を扱うランオペや旅行会社への販路開拓と連携

観光活動による環境への影響・貢献の評価

- 観光活動や企業のCSR活動、教育活動による生物多様性や藻場面積の増減を定期的にモニタリングする。
- 一度訪れた参加者が継続的に関わっていきたくなるようなサービスを提供する

想定する成果

- 上記活動による環境保全への貢献を可視化する
- 保全と活用の好循環について定量的に評価することができる
- 参加者に継続的に保全活動に関わっていくことで、保全と活用の好循環が持続可能な形で形成される。

R8年度のゴール

- 保全と観光を融合した体験観光ができる町としてのブランディング・販売経路確保
- 観光活動による環境への貢献の可視化

想定される課題

- 販売経路（旅行会社、ランドオペレーター）とのマッチング